



現場から（最近のニュースから）

嫌な記憶



2023年の終わりが近づいてきています。振り返って考えると、なんか嫌だなと思うことがあるかもしれません。忘年会という言葉を使うくらいですから、年の終わりには嫌なことを忘れて、新しい年に備えたいというくらい、一年の間になにか嫌なことがあるのは当然なのかもしれません。嫌な記憶から解放されるために、高田明和『孤独にならない老い方』（成美堂出版）の一部から紹介

している記事がありました。

「過去には楽しい思い出もあるが、嫌な記憶も無数にある。悲惨な過去に対する苦痛をやわらげるには、松下幸之助さんが残した『過去がつらいと今がラクである』という言葉のように過去の延長線上に今の私があると考えるといい」ということです。楽しい思い出にふけりたいでしょうが、思い出すことの9割は嫌なことだというのが実際ではないかと言われます。楽しい記憶は、現世の競争、憎悪、嫉妬などから離れたものに限定されるからだそうです。志賀直哉が「もう一度、生まれたいか」と聞かれ、「今の記憶がなければ生まれてもよい。だが、今の記憶があるなら嫌だ」と言ったそうです。嬉しい思い出は1割にしかならないから、あれこれ思い出さないほうが過去とよく付き合えると言われていました。偉人や成功者と言われる人々も、過去のことで苦しんでいるということです。

近年、脳の研究が進んで、さまざまなことが分かって来て、思春期には大脳新皮質の発達が不十分であるゆえに、感情が爆発したり、性衝動につき動かされたりすることが多く見られるそうです。ですから、若い時に間違いを犯すことは避けられないということです。しかし、間違ふことによって、脳は正しい社会活動を営めるように育っていくと言われていました。それゆえ、過去の出来事は、脳が完成し、よりよい生き方ができるために避けられなかったことだと思えば良いということです。過去の延長線上に今があることを覚えるようにして、過去と苦闘する必要はないということと言われています。（11/7PRESIDENTonline<これを口ずさめば過去のイヤな記憶が和らぐ…経営の神様 松下幸之助が残した14文字の言葉>より）

過去の処理の方法は、見ないように蓋をするか、脳が育っていくための過程だったと処理するか、過去がつらいゆえに今が楽なのだと考えれば良いか、ということでしょう。どのような方法を取るにしても、過去の「嫌なこと」という事実は変わりません。嫌なことという事実ではなく、「それが理由」を知るなら、その過去は土台になります。「そのようになるしかなかった」目には見えない根本の問題があります。その問題に気づくための過去のできごとだったと分かれば、過去は土台になり、今、その解決を見ることができます。その根本を解決すれば、「そのようになる必要がない」ので、未来のための一歩を新しく踏み出すことができます。そうすれば、過去のことを「あってよかった。そうでないと、根本の問題には気づくことはできなかった」と思えるようになります。あなたの人生にある根本の問題を知り、過去は「そうなるしかなかった」と土台にして、その根本を解決する道に進んで行きませんか。それについて、お伝えしたいことがあるのです。



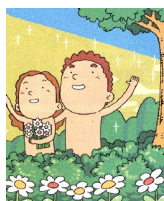
救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください